

912.3

シ

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on a rectangular piece of aged paper. The text is arranged in vertical columns from right to left. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to include the characters 小 (small), 橋 (bridge), and 山 (mountain). There are also some illegible characters and a vertical line drawn through the middle of the text.

三行

鐘馗

是の唐去統南山若藤の伝承に依る者

ての我帝初丹養園中毎記事あり

よる唯今帝初と題し終南山と云

之く野系乃霧を分りてを村に煙

思ふにとあるに地中の海流を記す

事不釣若少年も海ありとより記もある



あつめうやくく ^{いん} いたわきおつ旅人よふん
事ことのこと ^{いん} ぶたの事こと 惟ただはほのあつめえ
^{いん} 田た原はら希き希きは越こえの終はつりむむえに夢ゆめ園えん
ふたのわりの情なさけは夢ゆめとてふひ終はつり ^{いん} 夢ゆめ
たはらふ事ことの安やすらひの事こと也なり ^{いん} 越こえの終はつり
との人ひと終はつり ^{いん} 我われ誓ちか言ことば願ねがふとわりの心こころ鬼おにと
静しずけ親おや家いへ安やす全ぜんにあらむとて誓ちかひあり。

若わかば事ことと衆しゆとて君きみをいんとおひあ
つめ申まをふ現まくさすひ神かみとておひあ
養やしなへてふひ終はつり ^{いん} 先まに志こころ越こえの心こころぬれ
由よし身みらひの終はつり ^{いん} 志こころをたへて高たか祖そ乃の
世よに鐘かね越こえの心こころ志こころ人ひとをたへて及およぶれ
ふんよ自みづかしやと一念一念嘆なげき誠まこと籠かごへて後あと世よに
終はつり ^{いん} 心こころをたへて終はつり乃の事こと也なり

思はるに志んん世を亡ぶやゆまのり
申く成と父の常 物とて海一なる 打ち
に ^{四上} 菊虫露にらる志を道く 菊のるん
形らあく志松とて只風徳くや入るを書
あふとて実やあふ事もさひきとあひふ
も書雲はけよ六持とぬ花お袋のりよ
りて実めん何とらり月と実めん一生を風

のゆの雲をれわひにんんんんんんん
あれ上の池光乃ゆへは清んんんんんん
とあふるるの虫とてつひひひひひの情
ゆもる雲の親力ありとらや雲花を是書
乃花は白をさるんあ事花をわがおろふ見
かた乃秋雲光輝 ^{カキ} 花 ^{カキ} 花 ^{カキ} 花 ^{カキ} 花 ^{カキ}
をとり書さるる秋とてひと花 ^{カキ} 花 ^{カキ} 花 ^{カキ} 花 ^{カキ}

こと徳地のごくしつとくととるひをえ
ららららしなからんかたのさうらうあら
ら山歌のおまつるのしとせにりらく
花れさほに法とのへくさつちをたぶ
申に嵐と共になんかといひぬれとどく
あつとあつとわろ丸形は横道かた
りふあんとみんふ踏うぐ帝神より

ことあひとあゆむあひはあひとのり
事おはさへつとよく 上 女を次は我
心國は浅海の心拍心あり 日 夢をぬえ
あつとあつと日月新あらそん た せうん
梢とららあら 日 思恩のみれとせ
さつとく た 實も鐘は乃精靈あり ツリ
あつと乃山事な ツリ くた毛君をさと守ん

のぞき折鶴類もは折書ひのぞき得る所
らんま鐘かね危あや及およ牙かみ此こゝぐんぐん心こゝろむくむく昔
とせしめんとと難がたと一念一念發は起おこ量り提て公
あるとやと日ひ家いへままたた折お書きひひととああ公
と難がためめととたたくらくらとと禁い裏うら雲う井いのの橋
家いへ乃なり日ひ家いへ乃なりたた多た満まんくくああわわひひら
世よ後ご日ひ麻あ下しためめくく正ただ借か書きををととままくく

はたはたむとせめと思ひあひひひととと
むしハ案あんののむむくく鬼おに律りつらら通と方かたららせせわわ
とれむとせめらままははままははととくくははととり
とあらくはのあありりちちりりままいいふふかかひひ唯ただ
けけ祓はら乃なり威い光こうととちちののくくたたふふくくああはは地ちと
わ海うみ新あらたくくああらら海うみのの圓まるととちちりり事こと治ちるるまま
と成なりりりもも家いへののここととたた折お書きひひかかくく

巻六

鳥頭

是乃徳也一見乃僧也之ひ我未きふん

後定十寸は口かろ

本乃分種はき山せんちかすまの隠奥の

果中て乃肺せりやと思ひのさえも我を

山せんちかす^上海^ニの海^ニありあ^リ地獄^ノあり

極^ニと^テか^テも^ト思^ハふ^ノの^ハや^ハ界^ノ終^ノあり

於^ニ切^レる^ハ乃^ハ山^ノ降^ルより^ハ乃^ハ卷^ノの^ハ敷^カなり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

とある趣を候儀とて候もまよはざらん
と慚愧を心付るべく山下にたゞり
をれトナリ候はくわきあつは傍にやふ事

ののトらふ事めくひらゆのあえゆえ
儀奥へあつと市井トおろしてやんかの
漢おくら穢師よその者のあその書れ
比身海のそゆを書ふれト宿とる為儀

ひくそれは山藁をさひゆてそれと作ゆ
毛糸思ひの事ぬ事と信の物まゝ居り
と事ぬ安とる此山事ぬの者あつら
とのやひやてら候ら山事ぬゆ

実様をうまゆあての存思ひをこの色
世トらふとこの内トまては射トるを此麻ト糸
の袖とて此ト是とて向トおと儀とて

此為...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

好くう神の亡者乃るまじりある義を
手向はま義をさして手向はれ 南無
靈也離生記頓悟菩提越其真の即此
あかよと名帝ありあまらうとあをさ
上見率於安永離三悪道よの文は
あまひあしやるた永三悪道とハの
ゆるいん況し身は為遠之信者よ

らんとも能く道たお蓮ありた名号智ある
らつめつ下集集たせつ神も法あり
る下去かうし身はかりに飛杖乃る
りり辱すこの身軀と殺し衆衆如霜
魚目此日如照し修へ山僧 所を陸真
くどうん海あり杉系乃志のえん
檀蓋なる事ありありの難信の

逢^上原^中の^下が^上ら^中と^下れ^上と^下海^上ら^下あ^中く^下月
の^上お^中よ^下の^上そ^中の^下漢^中が^上あ^中ら^下は^上任^中飛^下る^中ら^下は
有^上き^中る^下任^上あ^中ら^下ね^上お^中ま^下と^上色^中い^下ら^中る^下
ち^上や^中清^下ら^上ん^中と^下親^上子^中を^下に^上て^中と^下飛^上ら^中ん^下位
と^上の^中あ^下ら^上ぶ^中程^下ら^上る^中武^上也^中や^下き^上に^中た^下ら^中ぶ
と^上も^中琴^下り^上し^中葉^下の^上子^中を^下今^上ら^中う^下ら^中る^下あ^中き
に^上啼^中と^下感^上と^中る^下の^上名^中を^下す^上ら^中う^下ら^中る^下や^中海

と^上の^中較^下し^上らん^中我^下の^上の^中う^下ら^中ひ^上お^中く^下に^上え
名^上刺^中も^下思^上あ^中ら^下ぬ^上と^中お^下ま^上る^中髪^下と^上ら^中る^下
と^上わ^中ら^下る^上の^中う^下ら^中や^上ら^中ん^下を^上ま^中ら^下る^上は^中あ^下ら^中る^下
乃^上雲^中は^下陽^上を^中り^下か^上や^中ら^下る^上く^中今^下ま^上ら^中ん^下見^上て^中
非^上中^中松^下乃^上ら^中う^下ら^中あ^上ら^中り^下月^上に^中事^下あ^上ら^中る^下ま^上ら^中る^下
津^上乃^中圃^下を^上和^中の^下笠^上松^中屋^下其^上あ^中ら^下る^上津^中津^下
浪^上も^中ら^下神^上を^中ら^下る^上の^中屋^下を^上ら^中の^下松^上を^中ら^下る^上れ^中葉

八重子... (partially visible text on the right edge)

非^ニ由^一松^二乃^一好^一ら^二う^一あ^二や^一り^二の^一は^二に^一事^一の^二く^一も^二是^一也^上

漢^一乃^二圃^一矣^上和^上向^上の^二是^一松^二也^一其^二西^一乃^二漢^一也

浪^一も^二り^一神^一ま^二の^一成^二を^一も^二の^一花^一を^二い^一れ^二著^一

是を満ちありきや杉櫓屋を^上風は
屋に^上懸る^上我々^上の^上漢を^上祓に^上
あ^上ら^上の^上外^上の^上事^上を^上た^上り^上健^上事^上激^上死^上
と^上都^上て^上多^上に^上似^上たり^上兼^上持^上栗^上床^上と
中^上の^上ゆ^上と^上い^上も^上後^上世^上と^上い^上る^上海^上の^上士
農^上工^上商^上の^上家^上の^上子^上を^上れ^上と^上又^上と^上契^上る^上奏^上書
畫^上と^上う^上る^上じ^上方^上の^上事^上を^上次^上只^上明^上く^上も^上書^上

お^上教^上を^上と^上い^上る^上も^上日^上の^上事^上の^上日^上も^上不^上
作^上多^上の^上糸^上の^上時^上と^上う^上る^上ひ^上の^上舞^上の^上舞^上を^上か^上
う^上進^上と^上も^上漢^上出^上と^上う^上る^上解^上の^上事^上を^上た^上れ^上
及^上れ^上た^上も^上暑^上と^上わ^上た^上れ^上玄^上の^上の^上あ^上た^上も^上
そ^上う^上守^上と^上い^上る^上麻^上と^上い^上ふ^上舞^上師^上を^上と^上と^上
の^上事^上の^上あ^上り^上及^上れ^上う^上る^上も^上出^上し^上ゆ^上を^上す^上れ^上
草^上の^上と^上い^上る^上繩^上と^上い^上ふ^上匠^上の^上事^上を^上た^上れ^上

凡^ニも^ニ神^ノは^レ彼^ノと^シ海^ノの^レ衣^ヲみ^ル于^テ海^ト
と^シ海^ノが^レつ^ラ軍^ヲま^スも^レぢ^ハ極^ノ電^ノ也^ト
と^シ然^レし^トも^レ馬^ノも^レ多^クあ^リと^シわ^カら^ズと^シあ^リ
何^レと^シも^レ押^ス馬^ノ頭^ノ也^トと^シる^ノの^レと^シく^もあ^リ
中^ノり^トも^レ殺^シ生^ノの^レ多^ク中^ノに^レ無^シ悲^ノ也^トを^レひ^ク乃^レ
日^ノ思^ハあ^リう^レお^レ流^レ波^ノ根^ノ乃^レ我^レ此^ノ指^ノ也^トも^レと^シ
お^レ流^ノの^レは^レ葉^トも^レも^レひ^クも^レう^レも^レ葉^ノ妙^ノに^レ子^ト也^ト

舟^ノを^レ落^シ存^レれ^ルが^レも^レや^レ親^ノら^レわ^レと^シと^シど^レれ^ト
う^レと^シあ^リと^シ呼^スま^シて^レお^レら^レ也^トと^シる^ノと^シ苦^シへ^キり^ト
え^レえ^レと^シら^レれ^ルや^レと^シる^ノと^シる^ノと^シあ^リ親^ノら^レを^レた^シて^レ血^ト
の^レ海^トと^シく^もあ^リと^シわ^レら^レわ^レれ^ルと^シす^ル義^ノ也^ト也^ト
と^シる^ノと^シあ^リの^レ家^ノの^レあ^リと^シり^トあ^リと^シく^も
と^シる^ノと^シあ^リも^レあ^リと^シわ^レれ^ルと^シ於^テ流^レる^ノ血^ト乃^レ
海^ノも^レ月^ノも^レ知^ラず^トと^シわ^カら^ズと^シる^ノと^シ葉^ノの^レ粉^トの^レと^シ

上ハ上 下ハ下 中ヨリ
 一もく 眞をみとら 化をとり 飛ん
 ばと ぬえを 練れらるる あり ねと ころ
 洞の 尻と 尻と 尻と 尻と 尻と 尻と
 げん と ころを 獲 尖の 標よ び せん ころ 変と
 おひえぬハ 驚き 減 あり 科 海 ぐん ありん
 と すれば ころ ころ あり 羽 振 あり 結 あり 馬 頭

ぐん あり ころ あり 我ら 雑と ころ あり
 ころ あり ころ あり 猪 場 の ころ あり ころ あり ころ あり
 上ハ 下ハ 地 と ころ あり あり あり あり あり あり あり
 ぬ あり
 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

揚州

子勇 是八

加^{是八}彩^{子勇}は^{是八}出^{子勇}者^{是八}也。東^{是八}國^{子勇}方^{是八}此^{子勇}人^{是八}あり^{子勇}と^{是八}云^{子勇}ふ^{是八}
以^{是八}付^{子勇}程^{是八}と^{是八}執^{子勇}書^{是八}白^{子勇}向^{子勇}尺^{是八}と^{是八}る^{子勇}と^{是八}。越^{是八}人^{子勇}人^{是八}法^{子勇}
高^{是八}の^{子勇}出^{是八}來^{子勇}た^{是八}也^{子勇}の^{子勇}書^{是八}程^{子勇}尺^{是八}と^{是八}る^{子勇}と^{是八}。
事^{是八}大^{子勇}あ^{是八}ら^{子勇}る^{子勇}人^{是八}事^{子勇}り^{子勇}情^{是八}の^{子勇}事^{子勇}と^{是八}事^{子勇}を^{是八}
事^{是八}中^{子勇}作^{是八}ら^{子勇}れ^{子勇}の^{子勇}事^{子勇}事^{子勇}也^{是八}と^{是八}云^{子勇}ふ^{子勇}人^{是八}事^{子勇}
事^{是八}中^{子勇}作^{是八}ら^{子勇}れ^{子勇}の^{子勇}事^{子勇}事^{子勇}の^{子勇}事^{子勇}と^{是八}云^{子勇}ふ^{子勇}人^{是八}事^{子勇}
事^{是八}中^{子勇}作^{是八}ら^{子勇}れ^{子勇}の^{子勇}事^{子勇}事^{子勇}の^{子勇}事^{子勇}と^{是八}云^{子勇}ふ^{子勇}人^{是八}事^{子勇}

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately seven horizontal lines, written from right to left. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately seven horizontal lines, written from right to left. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

しつゝ^上 切ひまのやまの暮れ戸のこゝろ
くさくさ雨のしめやかなるはるはる
はるはるいそがしき
や那の山カニゆりやうりゆりゆり
おんないふたむね
何れか書のもうすはるはる
おんないふたむね
おんないふたむね

まはるまはる
しつゝ 切ひまのやまの暮れ戸のこゝろ
くさくさ雨のしめやかなるはるはる
はるはるいそがしき
や那の山カニゆりやうりゆりゆり
おんないふたむね
何れか書のもうすはるはる
おんないふたむね
おんないふたむね

浦子の孫河の海に死す岩津と云ふ
 一海に死す岩津乃は是出えは
 下は美ね津也親子の道ありては
 悲と云ふは心 家の人をよかれば
 川とてはありては 若くはありては
 此名をいふは心 悲しむは心ありて

りひをよかれば 楊川ふらりて花
 の雲とてはありては 花をよかれば
 娘と云ふは心 花をよかれば 親と云ふは心
 幼妻もあつては 花をよかれば 親と云ふは心
 都くろくはありては 花をよかれば 親と云ふは心
 夫の心ありては 花をよかれば 親と云ふは心
 てるるは心ありては 花をよかれば 親と云ふは心

花をみよきなぬく かくは是がるお女

とすの國にらりくの念 是がる

とすの國にらりくの念 是がる

和氣の女持人の念を 是がる

とすの國にらりくの念 是がる

花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ

花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ
花のうらみはなほ

いやはやうな御事して後とありしと
よるあるを也^ヤは^ハ向^カち^チも^モあ^アの^ノま
て^テと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ梅^{ウメ}川^{カハ}の^ノ水^{ミヅ}を
貴^キの^ノ儀^ノの^ノ花^{ハナ}の^ノ花^{ハナ}と^トあ^アら^ラな
し^シと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
あ^アく^クと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
の^ノ花^{ハナ}と^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を

よ^ヨく^クと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
し^シと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
と^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
な^ナら^ラぬ^ヌと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
と^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
の^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を
ゆ^ユき^キと^トあ^アく^クと^トの^ノ海^{ウミ}の^ノ水^{ミヅ}を

山崎のうつくしき川よき遊ばぬは花とすなり
りしとてあやうらふらふら梅いととし
くまありやうらふら梅いととし
雪を山よらふらふら梅いととし
尤もあはれ花ぬらふらふら梅いととし
梅をうらふらふら梅いととし
いと梅いと梅いと梅いと梅いと梅いと

花のうつくしき川よき遊ばぬは花とすなり
りしとてあやうらふらふら梅いととし
くまありやうらふら梅いととし
雪を山よらふらふら梅いととし
尤もあはれ花ぬらふらふら梅いととし
梅をうらふらふら梅いととし
いと梅いと梅いと梅いと梅いと梅いと

あまのこをさしおくれハ梅子此花のふ
むせのみみさかりをれおあけし味
えいれい海あつをれかて侍ひまぬ
いづく母もさなげさぬく佛果のえん
とかりにきり二世あまの海つに親子
道とまらぬさく

小智

^{大直河}
是ら高金院へはへなふ信下あり相
も小智乃ほけりひもとて表れゆき
ひのゆきをいれむ仲さふらむ
お園かみ御息女をれし世乃らるる
思はなふあつ小智の局られよあひ
ての表御影うさりあひひららるる

かゝるついでに海濱にふるふら又南風の座
おぼせのひとあつた智の角れはひ来さる
乃方にはたなりしと表字たぬんせは
陣心大弼仲あつたといふたつひと事
の宮方とあつたりだしま仲あつた
久といふといふいふ仲園のさつらひ

いふは後みそ ^{大臣} 是れと宮方あつたはあつた智

乃角れはひ来さるの方にひなる
秀中あつたといふせはひひとあつた
城乃とあつたといふ事あつた ^い宣
角れはひ来さるといふはあつたは
あつたはあつたといふは ^{大臣} 唯
この折はあつたといふはあつたは
ひとあつたはあつたといふは

抄の今世に...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

Handwritten Arabic text in a cursive script, likely a manuscript. The text is arranged in seven horizontal lines. The script is dense and fluid, with many small red dots and marks scattered throughout, possibly indicating specific characters or corrections. The paper shows signs of age and wear.

Handwritten Arabic text in a cursive script, likely a manuscript. The text is arranged in seven horizontal lines. The script is dense and fluid, with many small red dots and marks scattered throughout, possibly indicating specific characters or corrections. The paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, with several lines. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. There are small red markings above some characters, possibly indicating diacritics or corrections. The script is dense and flowing, characteristic of historical manuscripts.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, with several lines. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. There are small red markings above some characters, possibly indicating diacritics or corrections. The script is dense and flowing, characteristic of historical manuscripts.

ゆきももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに

ゆきももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに
らへるももれぬる御のまゝに

仲國の

めりかぬきり^上の国をさうひの^日 教
とまれば^上常なる^上は世に^上は^上の^上教
くは^上あまの^上の^上た^上を^上か^上と^上さ
ふ^上え^上ま^上の^上海^上の^上ま^上ん^上の^上た^上れ^上なる
さ^上や^上さ^上ら^上さ^上ひ^上ん^上あ^上の^上よ^上の^上さ^上ら^上
ま^上の^上い^上の^上ま^上の^上月^上は^上ま^上の^上お^上さ^上も^上教^上
か^上の^上あ^上の^上ま^上の^上さ^上の^上ま^上の^上か^上ら^上に^上教^上を^上

ハ^上宿^上り^上と^上さ^上れ^上て^上あ^上ら^上は^上ひ^上の^上音^上ん^上
は^上を^上さ^上あ^上の^上ま^上の^上は^上の^上を^上求^上の^上の^上さ^上ら^上
は^上の^上い^上の^上海^上の^上さ^上の^上ま^上の^上月^上は^上ま^上の^上あ^上の^上
ち^上か^上り^上れ^上の^上世^上に^上は^上を^上さ^上ら^上の^上れ^上に^上
は^上あ^上の^上ひ^上の^上の^上名^上を^上さ^上ら^上の^上さ^上ら^上の^上
の^上ま^上の^上海^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上
ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上
ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上ま^上の^上

わしヤラ 日下 じふの舟軍の感とらえを
らめとびとカ 名残乃公とて 引海薬とる
とと糸竹の 変すと海を舟載りて
月形ト 兼上 事りてに海をわらひぬる
乃事とカ 日下 じふの舟軍の感とらえを
あふとらえと 日下 じふの舟軍の感とらえを
公三 日下 じふの舟軍の感とらえを

海くもわぬ公今とゆりて
河よつまひらけゆとに神ら合
山山 日下 じふの舟軍の感とらえを
とらえ葉と海ととの終とらえと
ら見えたり仲中 日下 じふの舟軍の感とらえを
進

小

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

熊坂

^木宇^三字^十六^八の^六と^三松^三原^三の^三勢^三が^三く^三の^三表^三や^三河^三
と^三さ^三ら^三ん^三 是^三の^三勢^三が^三あ^三ら^三の^三せ^三ら^三の^三勢^三と

の^三我^三来^三東^三國^三と^三ん^三の^三程^三の^三あ^三み^三思^三
い^三ま^三東^三國^三の^三勢^三と^三志^三の^三入^三山^三越^三の^三近^三に^三
沿^三ふ^三ま^三や^三水^三海^三乃^三く^三西^三条^三津^三の^三表^三も^三
み^三届^三う^三せ^三の^三長^三橋^三お^三海^三の^三ら^三を^三み^三原

よ... 船... 海... 船の...
く... 船... 海...
へ... 船... 海...

この... 船... 海...
... 船... 海...
... 船... 海...

この... 船... 海...
... 船... 海...
... 船... 海...

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

^と ~~あやだれとをくまるといふは~~ 白河からかきん

筆刺益 ^い 船生記と ^い られはよりの

^{四上} 白河とあひひと身はひらく ^い せらひのあ

かみのの ^い け ^い け ^い け ^い け ^い け

わりの ^い け ^い け ^い け ^い け

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

~~あやだれとをくまるといふは~~ 白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

あやだれとをくまるといふは白河からかきん

ちかたわらわのあつたのちかたわらわのあつた

しとくえいふてふてふてふてふてふてふてふ

てふてふてふてふてふてふてふてふてふ

~~あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの~~

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

あつたわらわのあつたわらわのあつたわらわの

中世の佛

竹林の佛上の女相上と云ふ上のあり上のあり上

然る上く上と云ふ上のあり上のあり上のあり上

又世に捨者の志ん上のあり上のあり上のあり上

さ上のあり上のあり上のあり上のあり上

か上のあり上のあり上のあり上のあり上

乃利上のあり上のあり上のあり上のあり上

とら上のあり上のあり上のあり上のあり上

子上のあり上のあり上のあり上のあり上

ち上のあり上のあり上のあり上のあり上

方上のあり上のあり上のあり上のあり上

是上と見上れと上のあり上のあり上のあり上

未上のあり上のあり上のあり上のあり上

と上のあり上のあり上のあり上のあり上

志上のあり上のあり上のあり上のあり上

海へお心をさしあまやあほら我も
 とあまんゆかたがんきんに入まを
 くらひやうせく病をまもまひ
 松陰はあまをわきまぬ
 書風をまじりて
 とあまゆはとあまをま
 とあまをわきまぬ

大越

東南の風を

西の舟雲あつた
 東の舟雲あつた
 月をまもまひ
 松陰はあまをわきまぬ
 書風をまじりて
 とあまゆはとあまをま
 とあまをわきまぬ

サコミン

清々たる身を飾りて
海に月影を照らす
まじりの月影を照らす

酒を飲めば心は
まじりの月影を照らす
まじりの月影を照らす

志れは色牛養子とてあつた海、敵を
くがふかよめらう海、あひらぬんお
らんあつてはれきつれあつたあつて
らんあつてはれきつれあつたあつて
物よつてあつてあつてあつてあつて
果てはあつてあつてあつてあつて
のあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて
よあつてあつてあつてあつてあつて
らんあつてあつてあつてあつてあつて
らんあつてあつてあつてあつてあつて
く物とて其冠者うらあつてあつて
そあつてあつてあつてあつてあつて
らんあつてあつてあつてあつてあつて
らんあつてあつてあつてあつてあつて

四下

みらんよあーさんれいあ若ともれつてきり
厚うにわせんをたふらうりあきとせし
きこのちかかひにそらあどりのつまやん
ふんにれろ枝小男と種ひたりの牛
若子や田舎りくちかめさそらあおひ
どどろくをくそゆらけの徳坂もあか
かゆくさひまうゆとゆらりるるらあ
か

徳坂さきくもゆらりるるらあ
ゆくちかかどどろくそゆらりるるらあ
ちかかひにそらあどりのつまやん
ふんにれろ枝小男と種ひたりの牛
若子や田舎りくちかめさそらあおひ
どどろくをくそゆらけの徳坂もあか
かゆくさひまうゆとゆらりるるらあ
か

もせと^{ステ}あ^カわ^ヒか^シと^ニあ^ル所^ノは^ハひ^ハよ^ク
ぬ^ハ海^ノよ^リと^シ具^ノ長^ノの^も記^スま^スと^ラや^シと^シ
き^ハら^ハい^ハま^ハ復^冠者^カ切^ハ事^レら^シ
う^ラら^ハい^ハま^ハ天^命の^軍れ^ハさ^リあ^ラせ
^大意^ニあ^リま^ハら^ハい^ハま^ハの^わい^ハま^ハく^ハま^ハあ^ハぬ^ク
手^ニあ^ハい^ハせん^とて^ハち^カあ^ハひ^ハと^シた^ハま^ハ
ひ^ハら^ハい^ハま^ハの^あん^ハら^ハい^ハま^ハつ^マら^ハれた^ハあ^ハ

ひ^ハあ^ハい^ハま^ハと^シま^ハれた^ハけ^レら^ハあ^ハ
あ^ハれ^ハ月^ノや^ハあ^ハら^ハい^ハま^ハの^まは^ハい^ハま^ハ
^七分^ノく^ハい^ハま^ハの^あひ^ハぬ^クい^ハま^ハ
か^ハも^ハより^ハあ^ハり^ハい^ハま^ハの^いま^ハの^いま^ハ
^四十^ノ若^ノの^あら^ハい^ハま^ハの^あら^ハい^ハま^ハ
い^ハま^ハの^あら^ハい^ハま^ハの^あら^ハい^ハま^ハ
い^ハま^ハの^あら^ハい^ハま^ハの^あら^ハい^ハま^ハ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



拍	不	計	行	右
子	足	勝	雖	下
令	當	今	多	條
改	流	亦	言	諱
正	秘	闕	違	者
者	惑	不	身	注
也	之	善	誤	々
	加	補	難	板

元禄二歲己初冬吉辰

楠南通三町目

